

科目名	国語Ⅱ			英文表記	JapaneseⅡ		2010年 3月12日
教員名：滝 雅士、澤井 万七美（前期のみ担当）							作成
対象学科	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業方法	授業期間	
全学科	3年	必修	履修	2単位	講義	通年	
目 標	1 実践的な技術者として必要なコミュニケーション能力の基礎を修得する。 2 技術者として必要な日本語表現能力（読む・書く・話す・聴く）を身につける。 3 チームによる組織的活動におけるコミュニケーションの重要性を理解する。						
高 専 目 標	1	2	3	4	JABEE プログラム名称		
		◎		○	JABEE プログラム教育目標		
授業概要、 方針、 履修上の注意	1 プレゼンの基礎をロールプレイやチームによる表現活動を通して実践的に学ぶ。 2 発表に必要な言語表現のトレーニングを通じて、実社会での言語運用能力を磨くとともに、科学技術文章の基礎を学ぶ。 3 組織的な学習活動を通じて、コミュニケーション能力と問題解決能力を養う。						
評 価 方 法	前期：パネルディスカッション 60%、課題・提出物 40% 後期：論文・課題・提出物 60%、学年末試験 40% （学年末は前期+後期を1/2したもの） ・チームによる発表・提出は、チームの評価が個人の評価となるので注意すること。 ・PBL形式のため欠課にも注意すること。 ・適宜授業のはじめに漢字小テストを実施する（ただし成績評価対象外）。						
教科書・教材	・『新国語総合 改訂版』（教育出版）・『改訂版 新国語総合ガイド』（京都書房） ・『④～②級 漢字の学習』（三省堂）						
参 考 図 書	『「分かりやすい表現」の技術』（藤沢晃治、講談社、1999）、『プラクティカル・プレゼンテーション』（上村和美ほか、くろしお出版、2005）、その他授業内で適宜指示する。（他にも参考図書を探す場合のキーワード：日本語・表現・プレゼンテーション・コミュニケーション）						
授 業 計 画							
授 業 項 目	時 間	授 業 内 容					
1. 前期ガイダンス	1	この授業の前期の進め方、準備等について説明する。					
2. 発表の形式	1	学会やビジネスシーンでのさまざまな発表の形式を知る。					
3. パネルディスカッションの立案	2	PBL のチーム分け、役割分担を行ったうえで、現代社会に関する問題を取り上げてテーマを決定し、パネルディスカッションを立案する。					
4. パネルディスカッション・プレ発表の実施	4	パネルディスカッション・プレ発表を実施する。					
5. パネルディスカッション・プレ発表の反省	2	パネルディスカッション・プレ発表の問題点を認知し、反省する。					
6. パネルディスカッションの再立案	12	パネルディスカッション・プレ発表の反省に基づき、再度、パネルディスカッションを立案し、本発表の準備をする。 あわせて、2年生の復習テスト・演習問題を通して、公的な場にふさわしい語句や表現、また図表の読み取り方等、発表に必要な基本的表現を身に付ける。					
7. パネルディスカッション・本発表の実施	6	パネルディスカッション・本発表を実施する。					

8. 前期まとめ	2	パネルディスカッション全体を振り返り、反省と改善点をまとめる。	
前期期末試験	[0]		
1. 後期ガイダンス	1	この授業の後期の進め方、準備等について説明する。	
2. パネルディスカッション論文化	9	前期に実施したパネルディスカッションを、チームとして1本の論文に仕上げる（中間報告を求める）。	
3. ビジネスシーンでの言語表現	4	ビジネス文書に関する効果的な口頭・文書表現について学ぶ。	
4. 百人一首入門	2	百人一首を楽しみながら学ぶ。	
5. 『伊勢物語』から『源氏物語』へ	12	『伊勢物語』「初冠」「芥川」「小野」「狩の使」を講読し、『源氏物語』や『一本菊』などの後代の作品への影響を考える、また、関連文学史についても学ぶ。	
6. 後期まとめ	2	授業のまとめを行う。	
学年末試験	[1]		
学習時間合計	60	実時間	50

学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（50分＝1、100分＝2）
 通年は2ページ、半期は1ページ以内におさめる。